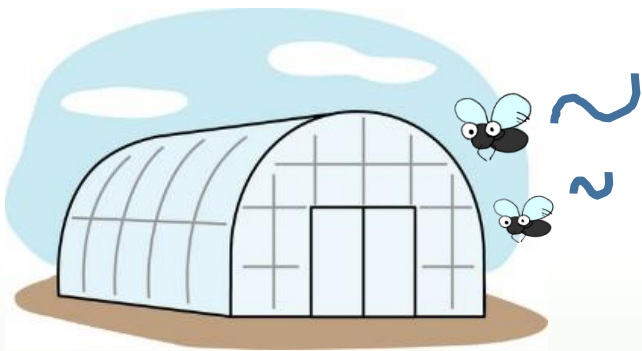


施設栽培（トマト・キュウリなど）の蒸し込み処理による害虫防除について

～栽培終了後には、ハウスを密閉して、コナジラミ類やアザミウマ類、ハモグリバエ類などの害虫防除を実施しましょう！～



オシツコナジラミ成虫



ミミキイロアザミウマ成虫



マメハモグリバエ幼虫

施設栽培のコナジラミ類、アザミウマ類やハモグリバエ類は、栽培初期から粒剤による土壌処理や生育中の薬剤散布などによる防除が重要ですが、施設栽培の終了した後に、生きたまま害虫を施設外に逃がさないことも重要な対策になります。

このため、下記を参考に、薬剤による害虫防除や栽培終了後のハウス蒸し込み処理などを徹底し、害虫の死滅を図ってください（ハダニ類は高温に強いために、蒸し込み処理の効果があまり期待できません）。その際、地域や産地全体が共同で対策にあたるとさらに効果が高くなります。

蒸し込み処理の注意点

- 1 作物栽培中に、害虫の発生量が多い場合は、野外へ飛び出す個体数が増えることが予想されますので、栽培が終了するまでは薬剤防除を実施してください。
- 2 栽培終了後の蒸し込み作業は、栽培作物の株元を切断するか又は抜き取った後に、ハウスを密閉し、目安としてハウス内温度が40℃を超える期間が10日以上持続するように管理することが必要です。
- 3 ハウス内にある機材類で、高温により障害の出るものは、持ち出すか、遮光を行うなどの処置が必要です。特に、夏季の晴天時には施設内が70℃くらいまで上昇する場合がありますので、特に注意してください。
- 4 また、効果が安定する別の方法として、切断するか又は抜き取った株を寝かせて並べ、その上に透明ビニールをべた掛けすることで茎葉部分の温度を上昇させる方法があります。その場合、天窓を開放してハウス内の急激な温度の上昇を抑制することができます。

暖房機を設置している場合は、高温により部品が破損する恐れがあるので、事前に部品を取り外すなどの対応を行う。

栽培中に害虫が多発生した場合は、防除を徹底する

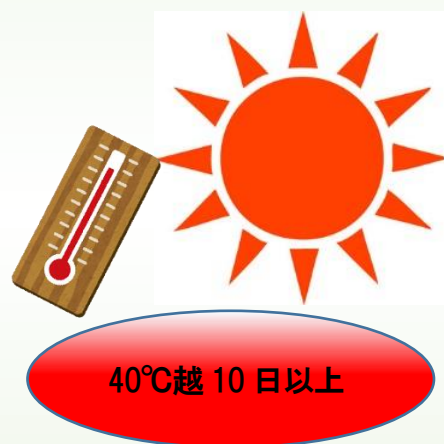
栽培終了後、地際の茎を切断するか、株を抜き取る

ハウス開口部を全て締め切り、ハウスを密閉する

- ① 株を寝かせ、その上をビニール等でべた掛けする
- ② 天窓は開放のまま、その他の開口部を密閉する

ハウス内またはべた掛けビニール内温度が40℃を超える期間が10日以上持続するように管理する

残渣株をハウスから持ち出し、適切に処分する（ハウス周辺には放置しない）



40℃越 10 日以上

- 農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。
- 営農 News は JA 全農いばらきホームページでもご覧になれます。